

シュリンクシティに関する日本・ドイツ国際交流セミナー(京都市/名古屋市)のご案内

Bilateral Joint Research Projects/Seminars

シュリンクシティ再考ー人口変化の新パターン・地域での多面性と多層のガバナンス

Shrinking cities revisited: New patterns of uneven population development, multifaceted local implications, and the challenges of multi-level governance

主催：シュリンクシティ研究会（代表：海道清信・名城大学、副代表：服部圭郎・龍谷大学）

後援：名城大学、龍谷大学、龍谷大学地域公共人材・政策開発センター、立命館大学地域情報研究所、都市環境デザイン会議、公益社団法人日本都市計画学会、公益社団法人都市住宅学会、日本計画行政学会、日本建築学会東海支部、京都市。なお、本セミナーは日本学術振興会 JSPS とドイツ研究財団 DFG による二国間交流事業セミナーの支援を得て実施する。

先進国では、20 世紀後半に人口減少とそれに伴う都市の機能と空間の衰退・空洞化が顕著な都市、すなわち「シュリンクシティ」がはばひろく見られるようになってきている。シュリンクシティではさまざまな地域問題が生じ、政策が立案実施され、都市計画・都市政策分野でも調査研究が進められている。我が国でも人口減少都市に対応した政策が始められ、学術的調査研究も活発になりつつある。

旧東ドイツを中心に 1990 年代以降、激しい人口減少が生じたドイツは、シュリンクシティへの戦略的対策を実施して、成果も明らかとなっているが、近年ではあらたな変化が見られるようになってきている。こうしたドイツにおける政策と効果、新たな変化、さらに学術的な研究の動向を理解することは、日本における縮小都市の対応策と研究の発展のために有効であろう。

本セミナーはドイツから来日する研究者と日本の研究者が、シュリンクシティに関わる 5 つのテーマを設定して、報告・討論を行い最新の知見を交流することで、縮小都市問題への理解を深めていきたい。

<京都セミナー>

2019 年 10 月 11 日（金）10:30 - 17:30 龍谷大学響都ホール（JR 京都駅前）入場無料、同時通訳

テーマ：(1) シュリンクシティの形成と展開(コーディネーター：吉田友彦・立命館大) (2) 縮小から再成長へ(服部圭郎・龍谷大) (3) 縮小都市における概念的課題(藤井康幸・静岡文化芸術大)

報告者：大谷 悠(ライプツヒヒ・日本の家)、加登 遼(武庫川女子大)、阿部大輔(龍谷大)、黒瀬武史(九州大)、ステファン・プラガー、ハイク・リープマン、ヤン・ポリスカ、カトリン・グロスマン、シロ・ラング

連絡先：龍谷大学政策学部教授 服部圭郎：hattori@policy.ryukoku.ac.jp

<名古屋セミナー>

2019 年 10 月 12 日（土）13:00 - 17:30 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス DS101（地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」または JR 中央線「大曾根」下車）入場無料、同時通訳

(4) 都市政策とその手段(松行美帆子・横浜国立大) (5) 移民と再成長(海道清信・名城大)

報告者：服部圭郎(龍谷大学)、谷田真(名城大学)、福島 茂(名城大)、アンジャ・ネレ、ニコライ・ロスカム、ティム・レイバート、マニユエル・ウォルフ、マンフレッド・クーン、マリア・ブドニク、アネット・シュタインフューラー。なお、セミナー修了後に交流懇親会を予定。

連絡先：名城大学都市情報学部教授 海道清信：kaidou@meijo-u.ac.jp

この QR コード
で申し込み

